

団体 やってみたい活動支援補助金活用事業

平成28年度 採択事業 (順不同)

団体名	区分(※)	活動内容
いずみFの会	ジャンプ	ひまわり温泉ゆ・ら・らや総合体育館などの施設周辺に花の植栽とプランターの設置を行い、町の美化と、施設を利用する方に対するイメージアップを図る。
柳沢もりあげ隊	ホップ	少子高齢化が進む中、地元への愛着を深め「健康で明るく暮らせる自分たちの居場所をつくる」ことを目的に、地元史跡の勉強会や世代間交流イベント等を企画・実施する。
ひまわり風呂敷倶楽部	ホップ	町の花「ひまわり」を栽培・収穫し、収穫したひまわりで風呂敷を染める。これらを町のイベント等で活用し、広く町のPRを行う。
中山紅花保存会	ジャンプ	柏倉九左エ門家門前を紅花で飾り、さらに町内での紅花栽培を広げる。開花期には、写真撮影会、写真展を開催するほか、健康食品の特産化を目指す。
中山町お箸の会	ホップ	食を通し、町民が生涯心豊かに健康で過ごせることを目的とし、食に関する講話や地元の食材を利用した調理実習等を行う。
中山町シニアサロン まじゃらっしゃい	ステップ	町民の健康増進と介護予防活動を図ることを目的に、介護予防体操教室や、健康相談会、交流会などの開催を行う。
中山町かぶと虫ふれあいクラブ	ジャンプ	自然のかぶと虫の産卵場を設置し、幼虫を採取して子どもたちに配布する。また、かぶと虫ハウスで子どもたちにかぶと虫に触れてもらう。
グループ662	ステップ	豊田小学校の桜並木のライトアップを実施する。これに合わせて売店を設置し盛り上げるとともに、町外にも町のPRをする。

※この制度は同一事業で最長3回活用することができ、区分とは本補助を受ける回数の区分です。(ホップは初回、ステップは2回目、ジャンプは3回目を表します。)

やってみたい活動支援補助金とは

町では、公益活動事業を行う団体の立ち上げや成長・発展を支援するために、平成26年度から「やってみたい活動支援補助金」制度を創設し、やる気のある団体が創意工夫をこらして実施する独自の取り組みについて、町が補助することに支援し、町の活性化と協働のまちづくりの推進を目指しています。

平成28年度は、町地域コミュニティ活性化促進委員会による審査を経て、上記8団体の事業が採択されました。各団体には、採用年数によって決められた補助金上限額の範囲で、審査によって認められた事業対象経費に対する補助金が町から交付されます。

町でも、広報紙等を通じて各団体の活動を積極的に紹介し、活動を盛り上げていきたいと考えておりますので、町民の皆さんも、ぜひご参加ください(各団体の活動の様子は次ページをご覧ください)。

みんなで踏み出そう！ まちづくりへの第一歩

ご近所付き合い、大切にしていますか？

多くの町内会や自治会では、レクリエーション大会や芋煮会など、地域住民同士の交流活動を行っています。こうした幅広い世代が交流する催しは、地域の結びつきをさらに深め、また、再確認できる良い機会です。

皆さんは、こうした催しに参加していますか。

東日本大震災や熊本地震では、隣近所で声をかけ合ったり助かったという話もありました。一人でできること、家族だけで解決できることもありますが、地域の課題解決や子どもたちを見守る環境づくりなどは、地域住民との協力や理解があってこそできることです。

なにより、大規模災害の発生など、非常時は助け合いが大切で、「ご近所さんでありがたい」と思うはずですよ。

地域のために何かやってみたい

「まちづくり」は、決して行政だけが行うことではありません。町民の皆さんや地域

のために何かをしたい、魅力ある町にするため、自分たちの手でやってみたいことがある、そんな思いを形にしている町民の皆さんは、ぜひ「まちづくり」で地域などのために自分たちの思いを形にしようと頑張っている団体やその活動を、町は応援しています。

まちづくりのための支援事業

町では、各地区の交流や防災活動を進めるための「まちづくり推進事業補助金」、みんなのために新しい事業を応援するための「やってみたい活動支援補助金」、地域活動のための物品購入や公民館建設などに対する「コミュニティ助成事業」などを実施して、町民の皆さんと一緒にまちづくりを進めています。

この特集では、こうした支援を活用した取組みの一例として、地域や各団体の活動をご紹介します。

皆さんも、今よりちょっとだけ踏み出して、地域や仲間同士で、町をより良くするために身近なことから取組んでみませんか。

地域 まちづくり推進事業補助金 (新田町)



新田町は、町東側に位置する、人口486人(165世帯)の地域です。(平成28年5月末現在)

新田町町内会では、「まちづくり推進事業補助金」を活用しながら、あらゆる機会や活動を通して地域住民の交流を図っています。

6月12日に開催された「隣組対抗グラウンドゴルフ大会」は、「世代を超えて参加・交流できるレクリエーションを」との声で始まり、今年で26回目を迎えました。今では恒例行事となり「たくさんの人と交流できる年に1度の楽しみ」と話す方もいらっしゃいました。

橋本秀郎会長はじめ役員の方々は、「東日本大震災や今年4月の熊本地震など、災害の発生により地域の結びつきの大切さを再認識しました。『自分たちの地域は自分たちで守る』という意識で、万が一の時は互いに助け合わなければなりません。そのため、普段から交流を深めておくことが大切と考えており、交流事業を継続しています。町内会では、より良いまちにするために、地区としての意見を集約し、地域づくりに結びつけることができればと思っています」とまちづくりへの意気込みを語っていただきました。



隣組対抗グラウンドゴルフ大会の様子



※今後も、随時各地区等の地域づくりの取組みを紹介します。次回は柳沢町内会をご紹介します。